

製品名: CRTC1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80868**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|---|
| 説明 | マウスモノクローナル抗体 |
| 宿主 | ねずみ |
| 応用 | WB,ICC,ELISA,FC |
| 反応性 | 人間 |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | Mouse IgG1 |
| クローン性 | モノクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400 |
| 分子量 | 67kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | CRTC1 |
| 別名 | MECT1; TORC1; WAMTP1; FLJ14027; KIAA0616; CRTC1 |
| 遺伝子 ID | 23373.0 |
| SwissProt ID | Q6UUV9 |
| 免疫原 | 大腸菌で発現したヒト CRTC1 の精製された組み換え断片。 |

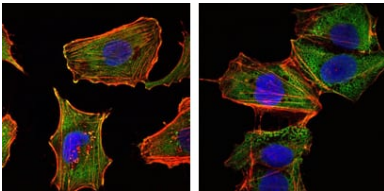
背景

MECT1 (Mucoepidermoid Carcinoma Translocated 1 と呼ばれる) は、コンセンサスおよびバリエーション cAMP 応答配列 (CRE) 部位の両方を介して転写を活性化する CREB1 の転写共役因子として機能します。MECT1 は CREB1 の DNA 結合活性を調節しないよ

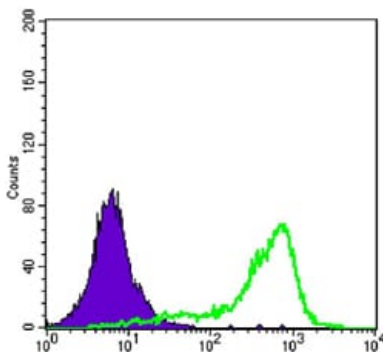
うですが、CREB1 と TAF4/TAFII-130 との相互作用を促進します。MECT1 は MAML2 (MasterMind-Like Protein 2) と転座し、融合がん遺伝子 t(11;19) (q21;p13) を生成します。この転座は、粘表皮がん、良性ワーシン腫瘍、および明細胞汗腺腫で発生します。結果として生じる新規融合産物は、Notch シグナル伝達経路を阻害します。この融合タンパク質は、MECT1 の N 末端と MAML2 の C 末端が結合したもので構成されています。MAML2 の N 末端と MECT1 の C 末端が相互融合したタンパク質が、少数の粘表皮癌で検出されています。MECT1 タンパク質には複数のアイソフォームが報告されています。組織特異性: 成人および胎児の脳で高発現しています。前頭前皮質や小脳などの特定の領域に局在しています。心臓、脾臓、肺、骨格筋、唾液腺、卵巣、腎臓などの他の組織では、発現が非常に低いです。

研究分野

画像データ



CRTC1 mAb (緑) を用いた U251 細胞 (左) および NTERA2 細胞 (右) の免疫蛍光染色。赤: DY-554 ファロイジンで標識したアクチンフィラメント。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



CRTC1 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (紫) を使用した K562 細胞のフローサイトメトリー分析。